



安全装備品と消防団活動

福島県西会津町消防団

1 はじめに

西会津町は福島県の北西部に位置し、新潟県と接して西の玄関口にあたります。面積298.13km²の約85%を山林が占め、小さな集落が散在する人口約8,000人の町です。

町の中央部を横断する阿賀川と基幹道路は、かつて都市間を結ぶ交通・交易の要衝として、いくつかの宿駅を形成し、人や物・文化の交流拠点として栄え、明治維新时期に野口英世の左腕を手術した渡部鼎をはじめとする多くの人材を輩出した歴史を有しています。

町の基幹産業は、昔から稲作が中心となっていますが、特別豪雪地帯であるため、冬期間は耕作が出来ず、昭和40年代から昭和60年代にかけては、農閑期に仕事を求めて大都市に出稼ぎ

に出る光景が風物詩であり、このことは消防団活動の支障でもありました。その後、農家の兼業化が進んで、近隣市町村の事業所に勤務するようになり、出稼ぎはなくなりましたが、社会環境の変化がそのまま、団員確保や、勤務中の消防団活動の制約といった課題を映し出しています。

2 西会津町消防団の紹介

西会津町消防団は、昭和29年の町制施行とともに旧町村に設置されていた5つの消防団を統合して、1本部、5分団、921名で発足し、平成22年12月1日現在は、1本部、5分団、実員453名で構成されています。

その間、昭和47年に広域消防による常備消防



分団ごとに色分け

が設置されましたが、消防署から遠く離れた集落が数多く散在していることから、指揮車1台、消防ポンプ自動車6台、小型動力ポンプ付積載車10台、同軽積載車13台、小型動力ポンプ47台を配備して、常備消防とともに地域の消防の中核を担っています。

発足以降の累計を平均した年間火災件数は4.3件(建物3.1件、林野0.6件、車両0.4件、その他0.2件)ですが、事業所に勤務する団員の割合が8割を超えており、その半数近くが町外で働いていることから、平日の昼間における火災等の初動体制を確保するため、住民参加型の訓練を重点的に取り組んでいます。また、平成21年4月に消防団OBを中心とするボランティア組織「西会津町消防支援隊」を結成しました。現在、240名が団員に登録しており、定期的に消防団との合同訓練を行うことで万一に備えるとともに、実際の火災にはいち早く出動して、初期消火活動や情報収集、水利誘導などの後方支援活動で大きな役割を果たしています。

3 安全装備品等助成事業の活用

この事業を知ったのは、消防協会喜多方支部が基金と共催で行った「消防団員安全管理セミナー」、「S-KYT消防団危険予知訓練」に本町の消防団員が参加した際に、講義の中で講師の方からこの事業の紹介があったことがきっかけでした。後日、幹部会で検討し、現場活動で団員の安全確保のために不足しているもので優先度の高いものを要望することとしました。

現場の団員の声を聞いたところ、照明器具やホースブリッジといったものは充足しているが、個人装備品が十分でなく、特に夜間の交通

整理作業で危険を感じているとの声が多かったことから、反射ベストを最優先に要望することとしました。

今回整備した反射ベストは、暗闇の中で作業する団員が外部から認識されやすいように夜光反射材を前後に装着している以外にも、災害時の混乱した状況下で所属と階級が一目で識別できるように、分団ごとに色を分け、背中の夜光反射部に文字で階級を示しています。これは、消防団員の災害出動が生業を中断してからになるため、多くの団員が集まっている現場に遅れて駆けつけた団員が自分の所属を識別できずに右往左往する姿が見受けられることがあったからです。また、現場を指揮する幹部にとっても、各団員の所属が明確に示されていないと瞬時の判断が困難であったからです。

反射ベストを着用することで、夜間の火災現場での団員自身の安全確保だけでなく、幹部が部隊を指揮するうえでの安全確保に大いに役立っています。

訓練では昼間でもベストを着用していますが、各団員の識別が容易で、効率が良くなっています。



反射ベスト



階級もわかる



ケブラー手袋

今回は、反射ベストと合わせてケブラー手袋を整備しました。それまでは、各団員が自前で購入した軍手を使用しており、また、中には素手で作業する団員も見受けられていたため、残火処理などの際にトタンや釘での負傷が懸念されていたからです。

4 公務災害を発生させないために

平成17年に山菜採りに出かけた行方不明者の捜索活動中に靱帯を損傷する公務災害が発生し、公務災害を防止することの重要性を痛感しました。それ以降は、幸いにも公務災害は発生

していませんが、このたびの助成を受けて整備した反射ベストとケブラー手袋を含む安全装備品の着用を徹底して、公務災害につながる危険を未然に摘み取るとともに、今後とも団員が安全で安心して活動できる環境を整えていくために、引き続き個人装備の充実に努めていきたいと思っています。

また、団員の事故防止と安全確認の意識を高めるため、「消防団員安全管理セミナー」、「S-KYT消防団危険予知訓練」などの研修を実施してまいりたいと考えています。